

KIBOKO



木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.36, No.2



- [表紙のおはなし]**
- ① 東北大学附属図書館創立百周年記念式典で挨拶する野家附属図書館長(2011/10/15 川内蔵ホール)。
 - ② オープンキャンパスに合わせて開催した「ご当地キャラクターと巡るEU5カ国の旅」展示を見学する高校生。
 - 東日本大震災に涙するミッフィーのイラストも展示されました(オープンキャンパスは2011/7/27-28に実施)。
 - ③ 東北大学復興広報キャンペーンロゴ。東日本大震災以後、東北大学の教育力、研究力、そして社会貢献力を更に大きく飛躍させて、世界リーディング・ユニバーシティとして人類社会に貢献していく姿勢をあらわしたものです。

Contents

SPECIAL

- [特集1] そのとき私たちができたこと
—東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災—

2

- 行列のできる「古本市」

7

- 東北大学ゆかりの方々の著作を集めた
「東北大ゆかりコレクション」を新設

- [特集2] 東北大学附属図書館創立百周年
～「もっと近くに 煙めいて遠くへ」に込めた思い～

4

TOPICS

8

- かしあわ、始めました
- EUをもっと知ろう
- 英語多読学習を支援します！
- 中学生が職場体験

EVENTS

- 利用者とともに創った記念日イベント
- 記念企画展「煌めきのコレクション—未来への贈り物—」
- 「種の起源」が贈呈された記念式典と
瀬名秀明氏による講演会

5

6

Editor's notes

8

SPECIAL

〔特集1〕 そのとき私たちができたこと －東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－

東日本大震災の被害状況と復旧経過をご紹介とともに、震災当日の本館の状況、皆さまからのご支援などについてご報告します。

被害状況・復旧経過



平成23年3月11日(金)の附属図書館(本館)の状況

14:46	地震発生 停電、非常灯のみ点灯 フロアにいた職員が利用者に「落ち着いてください」「書架から離れてください!」「机の下に入ってください!」と指示
14:49	揺れが収まった頃、利用者を正面玄関前の広場へ避難誘導 館内は天井からのホコリや壁表面の塗装の剥落により靄がかかったような状態 書架からはほぼすべての本が通路へ落下し、うすたかく積み上がっている状態だったが、正面玄関までの避難動線には問題なし 職員が手分けして1号館(地上2階・地下2階)及び2号館(地上4階)の各フロアの状況を確認
15:15	拡声器を用いて、荷物を持たずに避難した利用者を、エリア毎に数名ずつグループ分けし、 余震の合間に縫って、1グループずつ職員が引率して館内へ荷物を取りに行く
15:40	利用者の荷物引き取り終了 各フロアに人がいないことを再度確認の上、残されていた荷物を館外へ搬出 余震が続いているおり、広場に残っていた利用者に臨時休館を宣言 雪が降り始める 手回し式ラジオで情報収集 → 仙台空港を津波が襲い、千人以上孤立しているとの情報など
16:10	職員で今後の行動を協議(電気・ガス・水道・電話・大学メールサーバが停止) 街や交通機関の状況が把握できないため、週明けにあらためて今後の対応を検討することとする
16:30	正面玄関に臨時休館の貼り紙をして施錠

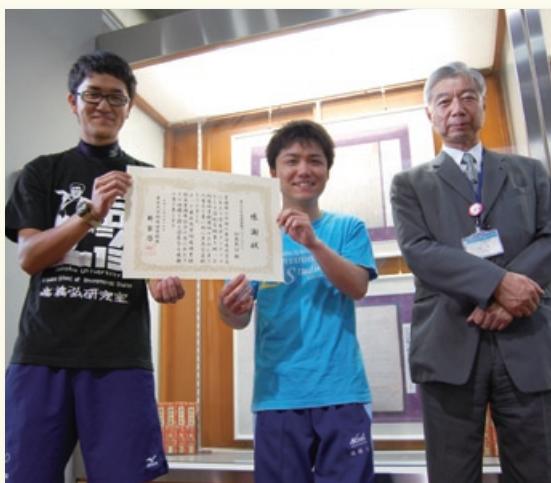
◆ 多くの方々の支援を受けて

東北大学附属図書館は、市内の5つのキャンパスに本館と4つの分館があり、各部局や研究所等にも図書室があります。各分館・図書室においても、大量の本の落下、書架の破損、壁のひび割れなど大きな被害がありました。幸いなことにどの館においても人的被害はありませんでした。



▶ 転倒したキャビネット(本館マイクロ室)

長期にわたった落下図書の整理作業に際しては、学生のみなさんの多大なご協力により予想以上に早い復旧が実現しました。延べ1,000名以上が参加してくださった学生ボランティアHARUに対しては、6月14日の創立記念日に、野家附属図書館長から感謝状が贈られました。職員の体力が限界に近づく中での援助に職員一同心から感謝しております。



▶ 野家附属図書館長(右)から感謝状を贈られた
学生ボランティアHARUの代表者

また、震災直後から全国各地の大学図書館などから支援物資が寄せられ、スーパーなどが通常営業するまで職員やボランティアの学生さんたちの元気の源となりました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。



▶ 全国から届いた支援物資

どの館も、順次震災前のようなサービスに戻りつつありますが、震災から10ヶ月以上経った現在でも、破損した設備の修理や図書の修復作業を行っています。館によっては作業の都合で一時的に利用できないエリアなどがありますので、最新の状況をウェブサイトなどでご確認ください。これらの修復がすべて終了するのは平成24年度以降の見込みです。

なお、被災地の図書館からの情報発信のため医学分館職員が執筆した英文記事は、医学系の世界最大規模のデータベースPubMedに収録され、世界中からアクセスされています。

[PubMed](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/21122502/) [Published](#) [Limits](#) [Advanced](#)

Search: [Go](#) [Reset](#)

Display Options: [Abstract](#)

Tohoku J Exp Med. 2011;225(2):77-80.

Messages from a medical library in the earthquake-prone zone.

Sakamoto K, Minamidate Y, Nasar T

Tohoku University Medical Library, Sendai, Japan. sakayots@library.tohoku.ac.jp

Abstract

On March 11, 2011 at 14:46 (Friday), a massive magnitude-9.0 earthquake attacked large areas of northeastern Japan, including Sendai City. The huge earthquake generated catastrophic tsunamis, leading to unprecedented disasters in the seacoast areas of the Tohoku region (about 20,000 dead and missing persons). Upon this earthquake, in Tohoku University Medical Library, a 3-story earthquake-resistant building, most of books fell down from bookshelves on the second and third floors, but the bookshelves remained steady because of the effective fixation. Many piles of fallen books blocked up the walkways and the narrow passages between the bookshelves, namely, books are easily transformed to dangerous weapons in a sharing building. Fortunately, all library staffs and users evacuated outside the building without even a scratch. Importantly, we were able to open the first floor of the Medical Library on March 14 (Monday), because the first floor has been used for the Learning Commons, with open space for group meetings. We thus provided students, medical staffs, and faculty members with the comfortable place during the early stage of the disasters. In fact, medical staffs and faculty members worked hard over weekend to deal with many patients and clear the post-quake confusions. Moreover, electricity, gas, or water supply was not yet restored in most areas of Sendai City. In the earthquake-prone zones, the Medical Library should function as a facility that not only enhances information gathering, but also provides the place like an easier relaxation for students and medical staffs upon great earthquakes.

▶ PubMedに収録された医学分館の震災報告記事



[特集2] 東北大学附属図書館創立百周年 ～「もっと近くに 煌めいて遠くへ」に込めた思い～

東北大学附属図書館は、平成23年6月14日に創立百周年を迎えました。

東北帝国大学が設置された明治40年(1907)から4年後の明治44年(1911)6月、附属図書館は現在の片平キャンパスに設置されました。



▶ 東北帝国大学附属図書館外観(雪景)

その後、医学分館が大正4年(1915)、農学分館が昭和49年(1974)、工学分館が昭和53年(1978)、北青葉山分館が昭和57年(1982)にそれぞれ設置され、現在に至ります。

附属図書館では百周年を記念し、小冊子「もっと近くに 煌めいて遠くへ -東北大学附属図書館百年の歩み-」を刊行し、平成23年10月開催の記念式典の参加者や関係者に配付しました。野家啓一附属図書館長による巻頭言には、「創設当初1万冊に満たなかった蔵書が、今日は390万冊を超える規模となったことが記されるとともに、「戦前・戦中・戦後を通じて、戦時中の蔵書疎開や空襲、戦後のキャンパス移転や大幅な定員削減、そして今回の東日本大震災による被災など数々の困難を乗り越え、百年の歴史を積み重ねることができました」と、長い歴史の中での苦難についても述べられています。



▶ 東北帝国大学附属図書館
閲覧室内部



▶ 百周年記念誌「もっと近くに 煌めいて遠くへ
-東北大学附属図書館百年の歩み-」

また、百年の間のコレクションの充実に至る経緯や、大学図書館全体をめぐる動向などを俯瞰し、今後の課題を「電子情報化による学習環境や研究環境の著しい変貌や学生気質の変化に応じて、図書館サービスのあり方も時代とともに変わらざるをえない」とし、「百年のよき伝統を着実に継承するとともに、21世紀にふさわしい『知の快適空間』を実現することこそ、われわれ図書館職員一同の切なる願いです」と結んでいます。

創立百周年のキャッチフレーズ「もっと近くに 煌めいて遠くへ」は、利用者に寄り添いサポートしつつ、研究や教育の飛躍を今後も長く支援していくという、図書館職員一同の決意を込めたメッセージとなっています。

今後も、入学直後から卒業まで、そして社会人となってからも、利用者のみなさんはずっと頼りにされるような存在であるよう、よりよいサービスを目指していきたいと思います。どうぞ図書館をご活用ください。



▶ 本館正面玄関の垂れ幕
「もっと近くに 煌めいて遠くへ」



利用者とともに創った記念日イベント

附属図書館の創立記念日である6月14日(火)に、本館をはじめ各分館・図書室で百周年記念イベントを開催しました。

■ 100回目の誕生日に贈る “図書館へのメッセージ”



▶ メッセージカードを書いてくださる利用者の方々(本館)

図書館へのメッセージを書いてくれた来館者へ、特製クリアファイルをプレゼントしました。贈られたメッセージをいくつか紹介します。

「百周年おめでとうございます。朝早くから夜遅くまで開館しているのでとても助かっています。」

「震災の際には、書籍整理ボランティアに参加しました。無事に復旧し研究を続けることができ良かったです。自分の大学にこのようなすばらしい設備があることに感謝しています。」

「大学で一番落ち着く場所です。これからもいっぱい利用します。」

「いつもレポート時お世話になっております。やっぱり紙の本が好きです。200周年に向けて頑張ってください。」

多くのうれしいメッセージとともに、イラストや絵文字などが書き添えられ、職員一同大きな励みとなりました。このメッセージカードは全学で500枚以上寄せられ、その場で掲示したほか、画像として保存し今後の広報などに活用する予定です。



▶ メッセージカードが一面に貼られたボード(本館)

日本を借りたらゲット! 記念日限定グッズ

当日本を借りた利用者に特製グッズ(エコバッグ、缶バッジなど)を進呈しました。グッズが早々と配付終了となってしまったところもあり、好評のうちに終了しました。



▶ 大人気の特製エコバッグ



▶ 寄せられたメッセージカードの一部



記念企画展「煌めきのコレクション－未来への贈り物－」

平成23年10月7日から11月5日まで、本館を会場として東北大学附属図書館創立百周年記念企画展「煌めきのコレクション－未来への贈り物－」を開催しました。当初の計画では市内の別会場を確保し、学生だけでなく多くの市民の皆様にも貴重なコレクションをご覧いただける機会とする予定でしたが、3月の震災により規模の縮小を余儀なくされました。しかし、展示するコレクションを精選したことで、当館コレクションの白眉ともいえる貴重な資料が一堂に会する豪華な展示となりました。会期中は国宝も展示し、記念式典で寄贈されたばかりの『種の起源』初版本とともに、これを目当てに遠くからはるばる足を運ばれる方もいらっしゃいました。

館内での開催となったことで、学生のみなさんにも気軽に見ていただける機会となり、アンケートでは「実物を見る機会なんて絶対無いと思っていたものを見られて満足です」、「歴史等をちゃんと勉強したことがない理系でも楽しめました」などうれしい感想が寄せられました。

また、東北アジア研究センターの平川新教授による「江戸時代の日本は帝国だった－ヨーロッパの見た日本－」と題した講演会も開催し、準備した会場のイスが足りなくなるほどご来場いただきました。

企画展は、毎年一回開催していますので、来年の企画も楽しみにしていてください。詳細は決まり次第ポスター、ウェブサイトなどでご案内します。



▶ 展示には図書館職員OB・OGにボランティアスタッフとしてご協力いただきました



▶ 平川教授による講演会は満席で質問も活発でした



『種の起源』が贈呈された記念式典と瀬名秀明氏による講演会

平成23年10月15日に、川内萩ホールにて附属図書館創立百周年記念式典を行いました。式典では、野家啓一附属図書館長の式辞に続いて、井上明久東北大学総長、来賓の皆様からそれぞれ祝辞をいただきました。

式典の中で岡本宏東北大学総長顧問・名誉教授から、ダーウィンの『種の起源』初版本が贈呈されました。岡本名誉教授は挨拶の中で、「つね日頃から、コペルニクスやニュートン、ダーウィンを目指すくらいの気概をもって研究せよ」と説いてきた。この貴重書を東北大学に寄贈することは、学問の振興と東北の復興を祈るものである」と述べられました。

続いて開催された、作家の瀬名秀明氏を迎えた記念講演は「科学と人間の未来、そして物語の力」というテーマで行われ、震災後、科学とどのように向き合っていくのかを考える機会となりました。瀬名氏は作家として『種の起源』にもふれ、次のように語ってくださいました。「ダーウィンは『種の起源』で未来を、そして進化がどういうものかということを科学者の視点で書いた。一方で、若者や一般の人々に向けて美しい文章で書いていている。この書物には文系と理系という区別がなく、150年前に書かれていながら、今も私たちの心を打つ。この講演に対して聴衆から、「作家として、文章を書くことへの思いを知ることができた」「『種の起源』を読みたくなった」などのコメントが寄せられ、大変好評でした。



▶ 講演される瀬名秀明氏
(葉学部卒業生、元本学特任教授)



▶ 「種の起源」について講演される岡本総長顧問



行列のできる「古本市」

大学祭初日の11月3日(木・祝)、本館では、創立百周年記念イベントの一環として初めて「古本市」を開催しました。不用決定された学生用図書約4,000冊を用意しましたが、1冊100円と格安の値段だったことから、この日だけの開催にも関わらず約3,000冊を販売しました。このイベントは学生のみならず一般の方の関心も高く、当日は開館前から会場である本館前に行列ができるほどでした。朝早くから駆け付けた学生は「今後の研究に大変役立つ」と笑顔を見せしていました。

この古本市の様子は、地元テレビ局のニュースにも取り上げられ、大学の地域貢献活動として大きく報じられました。

次の開催は未定ですが、利用者のみなさまにご不便をおかけした点などを改善し、また企画できればと思います。



▶ 開場前から予想外に長く伸びた行列はお昼過ぎになんて解消しました



▶ 会場には、飲み物の自販機などがあるブラウジングコーナーを使いました



▶ 会場は掘り出し物を探す皆さん熱気であふれていました



東北大ゆかりの方々の著作を集めた 「東北大ゆかりコレクション」を新設

本館では、本学卒業生または教職員経験者など東北大大学にゆかりのある方々の活躍を広く紹介するため、著作などの関連資料を積極的に収集し、それを展示・配架する専用のコーナーを4月に設置しました。

人気作家の伊坂幸太郎さん(法学部卒)の作品をはじめ、今年お亡くなりになりました北杜夫さん(医学部卒)の「どくとるマンボウ」シリーズ、さらに脳トレでおなじみの川島隆太教授、芥川賞を受賞した円城塔さん(理学部卒)の著作など数多く揃えています。

これらの資料は「東北大ゆかりコレクション」として今後さらに充実を図っていく予定です。学生閲覧室の本と同様に貸出できますのでどうぞご利用ください。



▶ 入館ゲートを入ってすぐの場所に設置された
「東北大ゆかりコレクション」

かさしえあ、始めました

川内キャンパス内に放置・廃棄された「かさ」を再利用するシステム「かさしえあ in 川内」の試行が平成23年6月から始まりました。キャンパスを訪れた人なら誰でも使って、急な雨の時は本当に便利です。かさは川内キャンパス内8カ所に置かれ、どのポイントに返しても構いません。ご利用の後はちゃんと返して、また次の機会に使えるようにしておきましょう。



▶ 本館エントランスホールに設置された「かさしえあ」専用傘立て

英語多読学習を支援します！

本館では、英語学習を支援するため、多読用の本を集めた「リーダーズコーナー」を1階メインフロアに設置しました。多読とは英語学習法の一つで、易しいテキストから徐々に難しいテキストに読み進め、多くの英文に接することで英語の能力を高めていくものです。英語の授業を担当されている先生と協力し、新たに多くのテキストを購入するとともに、レベル分けのシールを貼付し、学習上のアドバイスなどを掲示しています。ぜひご活用ください。

また、英語多読に関する情報提供は以下のウェブサイトからも行っています。

<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/main/pub/readers.html>



▶ その場で座って読めるようにイス・照明
スタンドも置かれたリーダーズコーナー

EUをもっと知ろう

10月27日と28日の二日間、本館を会場として「EUIセミナー」を開催しました。このセミナーはEU情報センターに指定されている大学図書館等の担当者が参加して、情報交換や研究発表を行ったり、EU広報担当者から最新動向等についてレクチャーを受けたりするもので、毎年会場を変えながら開催しています。今回は、駐日EU代表部のルディ・フィロン広報部長やEU代表部で専門調査員の経験もある本学の戸澤英典教授(法学研究科)による講演のほか、多くの学生をEU各国に招聘するようなプロジェクトの紹介などもありました。EUIに関する資料、パンフレットなどは2号館1階の専用コーナーで手に取ってみることができます。ぜひご覧ください。



▶ 講演するルディ・フィロン広報部長

中学生が職場体験

8月23日から25日まで、仙台市立八木山中学校の生徒が本館にて職場体験学習を行いました。本館では前年に引き続いで2年目の受入となります。

2年生の生徒4名は、配架(返却された本を本棚に戻す作業)やカウンター業務といった図書館の表側の業務だけでなく、普段見られない資料の受入、目録、電子化、生協に販売を委託している図書館グッズの納品といった裏方の業務も体験しました。生徒たちは、慣れないパソコンを使った業務では戸惑いもあったようですが、「配架作業が一番楽しかった」との感想を述べていました。

図書館の仕事に興味を持つてくれる若者がいるのは、図書館職員にとってもうれしいことでした。



▶ 重い本を一生懸命運んでくれました

Editor's notes

東日本大震災の影響で休止しておりました東北大学附属図書館報「木這子」の編集を再開しました。「木這子」をご愛読いただいている皆様には、大変お待たせして申し訳ありませんでした。今回は、東日本大震災復旧報告、附属図書館創立百周年記念イベントの報告を中心とした2大特集号としました。

また、創立百周年を迎えた記念にデザインをリニューアルし、より学生のみなさんに親しんでいただけるよう誌面を工夫しました。

次号は、2012年4月の新入生歓迎号として、図書館利用案内及びオリエンテーション案内等を中心にお届けする予定です。